

2010年5月24日  
株式会社日立製作所  
東洋エンジニアリング株式会社

## 日立、東洋エンジ、豪州 Eastern Star Gas 社が 中規模電動 LNG プラントの事業化調査の実施に合意

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)と東洋エンジニアリング株式会社(取締役社長:山田 豊/以下、東洋エンジ)は、このたび、豪州のガスおよびコールシームガス(CSG)\*<sup>1</sup> の開発会社である Eastern Star Gas Limited(本社:シドニー/以下、ESG)との間で、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州のニューキャッスルにおける中規模電動 LNG プラントの事業化調査を行うことで合意しました。ESG は、2014 年以降に LNG を輸出する計画があり、今回の事業化調査では、日立と東洋エンジが共同で中規模電動 LNG プラントの経済性の調査を行う予定です。

現在、オーストラリアでは、CSG の採掘が複数進行しています。ESG は、ニューサウスウェールズ州最大の CSG 鉱区を保有しており、2014 年以降に LNG を輸出することを計画しています。本計画では、日本向けなどを含めた LNG の輸出量は当初年間 100 万トンからスタートし、将来的には年間 400 万トン以上となる予定です。

今回、事業化調査を行う中規模電動 LNG プラントは、鉄道車両・鉄鋼プラントなどで培った電動化技術に強みを持つ日立と、プラントエンジニアリングの分野で培ったプロジェクトマネジメント力やエンジニアリング技術に強みを持つ東洋エンジが、米国チャート(Charter)社の LNG 液化技術を採用して提案するもので、従来の大型プラントとくらべ、漸次拡張可能であること、検討から建設までの期間をこれまでの約半分に抑えられること、建設費用が低減できることなどから、中小のガス田に向けた LNG プラントです。今回の事業化調査では、日立と東洋エンジが共同でこの中規模電動 LNG プラントの経済性の調査を行うほか、技術調査も合わせて行う予定です。

日立と東洋エンジは、今回のプロジェクトをはじめ、アジア・太平洋地域においてストランデッドガス田\*<sup>2</sup> などが存在することから、潜在的な中小規模の LNG プラントの需要があると見込んでおり、今後も共同で事業を拡大していきます。

\*1 コールシームガス(CSG):オーストラリアではコールシームガスと呼ばれるが、一般には炭層ガス(CBM)と呼ばれる、石炭層とその周辺から採掘されるメタンガスのこと。

\*2 スランデッドガス田:経済的、地理的な理由から事業化が進んでいない中小規模のガス田のこと。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所 社会・産業インフラシステム社 産業ソリューション営業本部 [担当:田辺]

〒101-8608 東京都千代田区外神田一丁目 18 番 13 号

TEL:03-4564-6269 (直通)

東洋エンジニアリング株式会社 広報・IR 室 [川腰 深沢]

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 2 丁目 8-1

TEL:047-454-1113

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---